

## 調 査 計 画

### 1 調査の名称

主要建設資材需給・価格動向調査

### 2 調査の目的

建設工事に必要な主要建設資材の需給及び価格等の変動状況を的確かつ早期に把握し、建設資材の需給並びに価格の安定化対策を図る基礎資料とする。

### 3 調査対象の範囲

#### (1) 地域的範囲

全国

#### (2) 属性的範囲

主要建設資材の生産者、商社、問屋、特約店、販売店等の事業所（供給業者）及び建設業法上の許可を受けた事業所（需要業者）

### 4 報告を求める者

#### (1) 数 約 1, 8 0 0 業者 （母集団の数 約 5 2 万業者）

※東日本大震災における建設資材の需給・価格動向を把握するため、当面の間は、  
約 2, 0 0 0 業者とする。

#### (2) 選定の方法（☐全数 ☒無作為抽出 ☐有意抽出）

建設資材の販売に関連する組合、協会等の会員名簿、建設業許可業者名簿を基に、都道府県別、需給別、品目別に無作為抽出する。

### 5 報告を求める事項及びその基準となる期日又は期間

#### (1) 報告を求める事項

①調査対象資材（7資材13品目）の価格動向（現在及び将来（3ヶ月先））

②調査対象資材（7資材13品目）の需給動向（現在及び将来（3ヶ月先））

③調査対象資材（3資材8品目）の在庫状況（現在）

#### (2) 基準となる期日又は期間

毎月1日から5日現在

### 6 報告を求めるために用いる方法

#### (1) 調査組織

国土交通省 — 北海道開発局・地方整備局・内閣府沖縄総合事務局 — 報告者

国土交通省 — 民間事業者 — 報告者（ホームページへのアクセス）

#### (2) 調査方法（☐調査員調査 ☒郵送調査 ☒オンライン調査 ☐その他（ ））

・郵送調査

北海道開発局・地方整備局・内閣府沖縄総合事務局から報告者へ調査票を郵送し、報告者にお

いて記入し、これを指定日までに各局へ返送する。

・オンライン調査

民間事業者のホームページ(国土交通省ホームページからアクセス)上に電子調査票を用意し、報告者において記入する。なお、オンライン調査を希望する報告者には、予め報告者毎に異なるIDとパスワードを付与しセキュリティ対策を講じる。

7 報告を求める期間

(1) 調査の周期

毎月(平成25年4月調査以降)

(2) 調査の実施期間又は調査票の提出期限

提出期限は、当月の10日

8 集計事項

別添集計事項一覧表による。

9 調査結果の公表の方法及び期日

(1) 公表の方法

インターネット(e-Stat)及び印刷物により公表する。

(2) 公表の期日

調査実施月の月末

10 使用する統計基準

調査対象の範囲の確定にあたっては、日本標準産業分類の大分類による。

11 調査票情報の保存期間及び保存責任者

a) 記入済み調査票

保存期間(1年) 保存責任者(国土交通省土地・建設産業局建設市場整備課長)

b) 調査票の内容を記録した電磁的記録媒体

保存期間(3年) 保存責任者(国土交通省土地・建設産業局建設市場整備課長)

# 標本設計について

## 1. 目標精度

供給業者及び需要業者における建設資材品目別の価格動向指数・需給動向指数（平均値）の全国推定値について、許容誤差を信頼水準 90% で 0.2 を超えないものとする。

必要標本数（回答数）は、以下の式により算出する。

$$n \geq \frac{N}{\left(\frac{E}{t}\right)^2 \frac{N-1}{\sigma^2} + 1} \quad \dots \dots \dots A$$

- |                      |               |
|----------------------|---------------|
| ・ 必要な標本数             | n             |
| ・ 母集団の大きさ            | N             |
| ・ 推定値の最大誤差（要求精度）     | E 0.2 を目標とする。 |
| ・ 信頼水準 90% によって定まる数値 | t (=1.65)     |
| ・ 想定される母集団の標準偏差      | σ             |

## 2. 標本数の算出

必要標本数の算出に用いる標準偏差は、平成 23 年 10 月～平成 24 年 9 月の調査結果における価格動向指数と需給動向指数の標準偏差を比較し、値の大きかった方の標準偏差を採用し、地方別（10 地方）・品目別（13 品目）に必要標本数を算出すると、約 3,700 件の標本数が必要となる。平成 23 年度調査における地区別回収率を考慮したうえ調査標本数を算出すると、約 7,500 件の標本数が必要となる。

## 3. 標本抽出方法

標本抽出にあたっては、平成 23 年 10 月～平成 24 年 9 月の調査結果における都道府県別・需給別・品目別の標準偏差を基に算出した各層の必要標本数の比率に応じて全体で約 7,500 件の標本を抽出する。

なお、調査対象業者数については、1 業者あたり複数資材を取り扱っていることから、平成 23 年度調査結果より、1 業者あたり 3～5 品目取り扱っているものとし、約 1,800 業者を調査対象業者とする。

供給側は、建設資材の販売に関連する組合、協会などの会員名簿、需要側は、建設業許可業者名簿を基に無作為抽出する。

#### 4. 東日本大震災における建設資材の需給・価格動向の把握

東日本大震災の復旧・復興事業の本格化に伴い、被災3県（岩手県・宮城県・福島県）においては、一部建設資材に需給のひっ迫や価格上昇が見られ、本調査においても需給・価格動向の回答のばらつきが見られる。

そのため、復旧・復興事業により、建設資材の需給・価格動向に影響が見られる当面の間については、被災3県の標本数を増加し、調査を行う。

##### （1）標本数の算出

必要標本数の算出に用いる標準偏差は、平成23年10月～平成24年9月の調査結果における価格動向指数と需給動向指数の標準偏差を比較し、値の大きかった方の標準偏差を採用し、地方別（9地方＋東北（被災3県）＋東北（被災3県以外））・品目別（13品目）に必要な標本数を算出すると、約4,200件の標本数が必要となる。平成23年度調査における地区別回収率を考慮したうえ調査標本数を算出すると、約8,500件の標本数が必要となる。

##### （2）標本抽出方法

標本抽出にあたっては、平成23年10月～平成24年9月の調査結果における都道府県別・需給別・品目別の標準偏差を基に算出した各層の必要標本数の比率に応じて全体で約8,500件の標本を抽出する。

なお、調査対象業者数については、1業者あたり複数資材を取り扱っていることから、平成23年度調査結果より、1業者あたり3～5品目取り扱っているものとし、約2,000業者を調査対象業者とする。

供給側は、建設資材の販売に関連する組合、協会などの会員名簿、需要側は、建設業許可業者名簿を基に無作為抽出する。

## 主要建設資材需給・価格動向調査 集計事項一覧表

表－1 主要建設7資材13品目の価格・需給動向及び在庫状況別都道府県数

集 計 区 分			集計事項
セメント		○価格動向指数(現在・3ヶ月) 5区分(下落、やや下落、横ばい、やや上昇、上昇)  ○需給動向指数(現在・3ヶ月) 5区分(緩和、やや緩和、均衡、ややひっ迫、ひっ迫)  ○在庫状況指数(現在) 4区分(豊富、普通、やや品不足、品不足)	都道府県数
生コンクリート			
骨 材	砂		
	砂 利		
	砕 石		
	再生砕石		
アスファルト合材	新材		
	再生材		
鋼 材	異形棒鋼		
	H形鋼		
木 材	製材		
	合板		
石 油	軽油 1, 2号		

表－2 主要建設7資材13品目の都道府県別価格・需給動向及び在庫状況

集 計 区 分			集計事項	
セメント		○都道府県別  ○ブロック別  ○全国	価格動向指数(平均値)	
生コンクリート				
骨 材	砂			
	砂 利			
	砕 石			
	再生砕石			
アスファルト合材	新材		需給動向指数(平均値)	
	再生材			
鋼 材	異形棒鋼			
	H形鋼			
木 材	製材		在庫状況指数(平均値)	
	合板			
石 油	軽油 1, 2号			

### 【 集計方法 】

- 価格動向指数を、1(下落)、2(やや下落)、3(横ばい)、4(やや上昇)、5(上昇)として、各報告者からの回答を都道府県別及びブロック別に集計し、報告者数の平均により算出する。
- 需給動向指数を、1(緩和)、2(やや緩和)、3(均衡)、4(ややひっ迫)、5(ひっ迫)として、各報告者からの回答を都道府県別及びブロック別に集計し、報告者数の平均により算出する。
- 在庫状況指数を、1(豊富)、2(普通)、3(やや品不足)、4(品不足)として、各報告者からの回答を各都道府県別及びブロック別に集計し、報告者数の平均により算出する。

(国土交通省) 主要建設資材需給・価格動向調査

具体の記載
(復元)推計方法について ・集計結果は回答の単純平均等であり、推計は加えていない。